

ドローン職員研修

観光PRなど幅広く

さつま町

さつま町は11日、同町のきららの楽校でドローンを活用した職員研修会を実施した。職員42人が参加し、最新の測量技術などの理解を深めた。

同町では、ドローンなどの最新技術を大規模災害への対応から観光を含めた町のPRまで、あらゆる分野での活用につなげたいとして開いた。建設課をはじめ総務課や教育委員会など幅広い部署から参加した。

同日は、第一工科大学の田中龍児教授とRTK・GNSS研究会の石澤

直樹技術員が講師を務め、最新ドローンをはじめ、

今後利用が期待される衛星測位システム「RTK」やみちびき衛星を利用した「CLASS(シーラス)」等の衛星測位について仕組みや特長などを座学のとあ実演して解説した。初めてドローン操作を体験した建設課の橋口由華建築係長は「どついうものか知っておきたかった。災害発生時などでも自分たちで対応できるように取り組んでいきたい」と話した。

田中教授は「ドローンは災害などの緊急な対



衛星測位などの最新技術を学んだ研修会＝さつま町のきららの楽校

強しておく必要がある」と呼び掛け

た。

高田真副

町長は「体験を通して、興味を持ち、農業や観光などの振興に向けてドローンを活用した斬新なアイデアが生まれることを期待したい」と語った。

応に備え、撮影方法等に慣れておくこと。衛星測位は車両の自動運転にも注目されるもので、将来を見据え、しっかりと勉